



議題	1 学校運営の基本方針について 2 各学校の教育活動の紹介 3 熟議「子どもの良さを伸ばし、課題を解決するには」 4 その他
会議録署名人	確定年月日 年 月 日
会議次第	1 開会 2 任命書交付 3 教育長挨拶 4 説明事項 つくば市のコミュニティ・スクールについて 5 会長・副会長の選出 6 協議 (1) 学校運営の基本方針について (2) 令和5年度の取組について (3) 学校の教育活動の紹介 (4) 熟議「子どもの良さを伸ばし、課題を解決するには」 (5) その他 7 閉会

<p>&lt;審議内容&gt;</p> <p>1 開会</p> <p>事務局：ただ今から、令和6年度 第1回 豊里学園コミュニティ・スクール協議会を開会いたします。なお、つくば市コミュニティ・スクール協議会に関する規則第6条第2項では、「会議は、委員の半数以上の出席がなければ開くことができない。」としております。本日の出席委員数は26名であることから、会議が成立していることをお知らせいたします。</p> <p>はじめに、会議を進行するに当たり書記を決めたいと思います。事務局案として沼崎小学校児玉先生にお願いしたいと思います。よろしいでしょうか。</p> <p>参加委員：お願いします。</p> <p>事務局：お引き受けくださりありがとうございます。よろしくお願いします。</p> <p>2 任命書交付、委嘱状交付</p> <p>事務局：始めに「任命書」の交付をいたします。任命書の交付は五十音順で代表者1名とさせていただきます。なお、教育長森田は欠席となります。代わりにまして教育局久保田靖彦より任命書交付を行わせていただきます。</p> <p>(「任命書」を池田委員に交付)</p> <p>続きまして、地域学校協働活動推進員の御紹介と委嘱状の交付を行わせていただきます。</p> <p>豊里学園で、学校と地域をつなぐパイプ役となる地域学校協働活動推進員を協議した際、地域学校協働活動の推進に熱意と識見を有する者として古澤武司委員、皆葉真治委員の両名を豊里学園から御推薦いただきました。そちらにつ</p>
---

きまして、地域学校協働活動推進員設置要項第3条に該当するものとして、「地域学校協働活動推進員」を委嘱させていただきたいと思ひます。

(「委嘱状」を古澤委員、皆葉委員に交付)

なお、本日、皆葉真治委員は御欠席となっております。

それでは、この会議におきまして皆様は、非常勤特別職として任命されまして任期は今年度末までとなります。委員の皆様におかれましては、守秘義務等の責務がございますので、どうぞ御留意をお願いいたします。また、委員の皆様の任命書については、机の上にお配りさせていただきました。御確認ください。また、委員の皆様の自己紹介に関しては、この後お時間を取らせていただいております。

### 3 教育長挨拶

事務局：続きまして、つくば市教育長森田から挨拶を預かっておりますので、教育局次長久保田が代読させていただきます。

久保田次長：

本日はお忙しい中、第1回豊里学園コミュニティ・スクール協議会に参加していただきありがとうございます。また、委員の皆様におかれましては当協議会の委員を快くお引き受け頂き、深く御礼申し上げます。

本年度、豊里学園においては、法に基づいた協議会を設置し、「コミュニティ・スクール」が本格始動します。昨年度1年間の推進会議を通じて、目指す児童・生徒の姿や、学校と地域が子どもたちのためにどのような協力ができるかを、時間をかけて話し合っていたいただいたことと思ひますが、その話し合いを基に、より具体的な議論を深めていただければと思ひます。

コミュニティ・スクール協議会の設置は、ゴールではなく、スタートラインであり、また、すぐ目に見える成果が出るとも限りません。しかし、委員の皆様の力を合わせ、未来を担う子どもたちのために何ができるのかを考えていくことで、必ず、それぞれの学校の実情にふさわしい地域との連携の在り方が生まれてくるものと感じております。

参考として、つくば市のモデル地域として、令和4年度から先行的に「コミュニティ・スクール」を導入した吾妻学園の取組を紹介させていただきます。吾妻学園では、昨年度、地域学校協働活動推進員のコーディネートにより、「ようこそ先輩」と題する卒業生や地域住民による授業を、キャリア教育の一環として実施しました。既存の枠組みを活用した地域学校協働活動の事例として、ぜひ参考にさせていただければと思ひます。

複雑化・多様化する社会の中で、子どもたちがこれからの時代を生き抜く力を育成するためには、つくば市教育大綱の理念にもあるように、保護者・学校・地域・行政が協力し、社会全体で子どもの育ちの場を支えることが必要不可欠となります。委員の皆様におかれましては、つくば市の教育の充実に向け、今後ともどうぞ御協力をよろしくをお願いいたします。

以上、代読させていただきました。

委員の自己紹介、職員紹介

#### 4 説明事項

事務局：社会教育主事の村上より「つくば市コミュニティ・スクールについて」御説明させていただきます。

事務局(村上社会教育主事)：社会教育主事 村上と申します。よろしく願います。わたくしのほうからは、

- 1 つくば市の教育が目指すもの
- 2 コミュニティ・スクールとは
- 3 つくば市で進めるコミュニティ・スクールとは

について御説明いたします。

まず、つくば市の教育が目指すものについて御説明いたします

配付されている教育大綱の冊子を手にとっていただき、1ページをお開きください。つくば市教育大綱では、一人ひとりが幸せな人生を送ることを最上位の目標に設定しています。次に7ページをお開きください。いま必要なことの中に、保護者・学校・地域・行政が協力し、社会全体で子どもたちの育ちの場を支えることを位置づけています。

教育大綱に基づいたコミュニティ・スクールの導入をすることにより、今後地域の多くの人々が学校づくりに参画し、地域と一体となり、地域とともにある学校づくりを進めて行きたいと考えています。つくば市の学校教育を所管している学び推進課からは、「学び推進方針」を学校に示しています。みんなが幸せを実感できる学園・学校・幼稚園にするために、今年度特に意識していることは、子どもたちの「自己決定」ができる環境を整えていくことです。また、学び推進課では「伴走から自走」というスローガンのもと、各学校が生き生きと自走していけるように日々関わっています。

続いて、コミュニティ・スクールについて御説明いたします。具体的にコミュニティ・スクールとはどのようなものかを御説明いたします。コミュニティ・スクールとは、一言で言いますと「地域とともに子どもを育む学校」と言えます。コミュニティ・スクールのコミュニティは地域住民・保護者・学校であり、それらが、力を合わせて子どもたちの成長を支えていく学校のことをコミュニティ・スクールと呼んでいます。踏み込んだ話をさせていただきますと、つくば市ではコミュニティ・スクール協議会という話合いの場を設置している学校をコミュニティ・スクールと呼んでいます。

豊里学園は今年度、協議会と言って、法に位置付けられたコミュニティ・スクールの本格設置となります。

スライドでお示ししているのが、コミュニティ・スクール協議会の様子です。右上、校長先生が学校運営の基本方針、いわゆるグランドデザインの説明をしています。中段、下段の写真、熟議を行っています。

さて、それではなぜコミュニティ・スクールが必要なのでしょう。現在、学校では「いじめ、不登校」「教員の業務量増加」、地域では「地域社会における支え合いやつながりの希薄化」など、様々な課題が挙げられます。また、新学習指導要領では、「よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創る」という理念を学校と社会が共有することが大切であると書かれています。

これらのことから、学校と地域の課題を解決するために、学校と社会が目標を共有したり、地域と学校が連携して幅広い視点で子どもたちの成長を支えたりする必要があるのです。

それでは、具体的につくば市で進めるコミュニティ・スクールについて御説明いたします。つくば市コミュニティ・スクールには、スライドでお示ししている4つの機能があります。

①の機能として、学校運営の基本方針についての承認があります。

学校運営協議会では第1回目に学園長・学校長が学校運営の基本方針、いわゆるグランドデザインの説明を行います。その基本方針に対して委員の皆様から承認を行うことからコミュニティ・スクール協議会がスタートしていきます。ただし、学校運営の責任者は校長であり、コミュニティ・スクール協議会が校長の代わりに学校運営を決定・実施するものではありません。

②の機能としては、学校運営に意見を述べるということです。これから始まるコミュニティ・スクール協議会では、皆さんの様々な視点から御意見を頂ければと思っています。

③の機能として教職員の任用について意見を述べることができます。教職員の任用とは、学校とコミュニティ・スクール協議会が実現しようとする教育目標等に適った人材を求めることです。例えば、学年主任ができるリーダー性のある教員や外国語活動に力を入れたいので、授業力のある教員を求めることなどです。

④の機能として、学校評価があります。委員の皆様と学校の課題について共有したり学校評価について話し合ったりということをしていきます。

先ほども申し上げましたとおり、豊里学園は今年度協議会という法に基づいた本格設置となります。

委員の立場としても特別職の地方公務員となり、スライドにお示ししているような責任のある立場となっていくしますので、御協力をお願いいたします。

先ほど、「熟議」という言葉が出てきましたので、「熟議」について御説明いたします。「熟議」とは、どのような子どもを育てたいのか、何を実現したいのか、という目標・ビジョンを共有するために、「熟慮」と「議論」を重ねることを言います。ひとことで言うと「よくよく、話し合う」ということです。

熟議では、テーマに対して、委員それぞれの考えを付箋に記し、模造紙に貼り付けていくというスタイルが多いです。熟議に参加する委員の方が、必ず意見を会議に反映させてほしいという意図のもとこのようなスタイルをとっています。

スライドでお示ししているのは、コミュニティ・スクールを自転車に例えたイメージ図です。自転車で例えるならば、協議会で話し合った内容が前輪及びハンドルとなり、「育てたい児童・生徒像」やコミュニティ・スクールの在り方などの方向性を決める役割を担っています。そして後輪には、地域学校協働活動が位置付けられます。地域学校協働活動とは、地域と学校が連携・協働して行う様々な活動のことです。コミュニティ・スクールでは、前輪の協議会で方向性が決まったものに対して、それを後押しするように地域と学校が連携して

様々な活動を行っていきます。この地域と学校との連携をスムーズに行うのが、地域学校協働活動推進員の役割です。学校の教育活動に対して地域学校協働活動を進めていくことで、この自転車がスムーズに進むようになります。自転車がスムーズに進むようになる時には、今まで以上に学校と地域が連携し、学校を核とした地域づくりにつながっていくはずで

地域学校協働活動の例を一つ御紹介いたします。昨年度、吾妻学園では、「ようこそ先輩」という学習において、ゲストティーチャーを地域学校協働活動推進員の方がコーディネートした授業を行いました。このように、地域学校協働活動が活発になると、地域の方々の関わりが、児童生徒の幅広い視野をもつことにつながります。また、地域の方々と関わることで、学校で学んでいることが社会でどのように役立っているかを理解することにもつながります。これまでは先生が中心となってコーディネートしていたのが、今後は地域の方の力も借りて成立するようにしていきたいと考えています。新しいことをやらなくてもよいのです。運営協議会の中で、何が必要か、何をしていくべきかについて地域と学校が熟議し、ともに作り上げていくこと大切です。既存のものをベースに、まずは、「学校理解」「地域理解」から進めていければと思います。

今日お伝えしたいことをまとめます。

- ①つくば市教育大綱では、一人ひとりが幸せな人生を最上位の目標としていること
- ②コミュニティ・スクールは地域とともに子どもを育てる仕組みであること
- ③つくば市のコミュニティ・スクールには4つの機能・役割があること
- ④熟議を通して皆が共有することが大切であるということ
- ⑤地域と学校が連携した様々な活動、地域学校協働活動が始まること

つくばの未来の創り手となる子どもたちのために御協力をよろしくお願いいたします。以上になります。

事務局：ただ今の件につきまして、御意見や質問はありますか。もし、何かございましたら後ほどお声がけください。

## 5 会長・副会長の選出

事務局：協議の前に、会長と副会長の選出を行いたいと思います。選出につきましては、つくば市コミュニティ・スクール協議会に関する規則の第5条第2項に「会長及び副会長は、委員の互選により定める。」とあります。

昨年度、会長・副会長として活動していただいた古澤委員と皆葉委員は引き続き協議会委員になっていただいているところでございます。会長を古澤委員、そして、本日あいにく欠席にはなりますが副会長を皆葉委員にお願いしたいと事務局から提案させていただきたいと思います。皆様いかがでしょうか？

参加委員：（拍手）

事務局：それでは、御移動と進行をどうぞよろしくお願ひいたします。

## 6 協議

### (1) 学校運営の基本方針について

古澤会長：みなさん、改めましてこんにちは。本日、副会長が欠席ということでもとても心配ですが、どうぞよろしく申し上げます。メンバーの皆さんを見ると昨年に引き続く方もいらっしゃるし、新たに強力な方々も加わって、有意義な協議会になったらいいなと思っています。どうぞよろしく申し上げます。

それでは、本日の進め方ですが、協議会として、この後各学校の運営基本方針、グランドデザインの説明、そして教育活動等の説明をしていただきたいと思います。その後、課題に対して皆さんで話し合ってください、いわゆる熟議を行いたいと思います。それでは、学校運営基本方針、いわゆるグランドデザインについて、学園長、そして各校長先生方から説明していただきたいと思います。その後皆さんに承認していただけるかどうかということもありますので、よく聞いていただければと思います。

### 豊里学園長（岡野校長）：学園グランドデザインの説明

豊里学園のグランドデザインについて説明させていただきます。令和5年度～7年度までの3年間、豊里学園のグランドデザインが設定されておりまして昨年度、御賛同いただいていると思います。学園 Purpose、学園の目的としてコミュニティとしての役割をメインとして、Well-Being 一人ひとりが幸せな豊里を目指してと設定されておりまして、そして、豊里学園のグランドデザインには大きく3つの柱が設定されておりまして、つくば市の教育大綱にも載っている通り、「教えから学びへ」、「管理から自己決定へ」、「非認知能力の再認識へ」という3本柱となっています。

そして、豊里学園の中では、

○「教えから学び」では、『「受け身の学び」から「自ら学び表現できる」意識の醸成』ということで建てられております。

○「管理から自己決定」では、『ルールメイキングで向上を目指す学級づくり』ということで、学級だけでなく、生徒会活動でも校則関係のルールメイキングを行っています。

○「非認知能力の再認識へ」では、『自分の得意や好きなことを見つけられるチャンスづくり』

という3本柱で、豊里学園の3小学校1中学校が同一步調で進んでいるところでございます。

両脇を固めるものとしまして、こちらの「コミュニティ・スクールの連携」と「やりがいと働き方のコラボ」と設定させていただいております。

具体的に、昨年度の例を申し上げますと、「教えから学び」では、年度末のアンケート結果ではこちらに載っているような結果が出ております。令和7年度の達成目標 80 パーセントを達成するためには課題があるかなと感じておりますが、このアンケートのとり方の「ふつう」のところは、「そう思う」のふつうと「そう思わない」のふつうが混ざっていると思いますので、今年度はアンケートの取り方を少し工夫して、明確にしたいと思っております。

昨年度の最後の学園評価のところでは、ポイント数として、3. 何ポイントだから高い低いと判断なさって熟議されていたと議事録からも確認がとれておりますが、今年度はもっと明確に子どもたちの姿が映し出せるように改善していきたいと考えております。

2つ目の「管理から自己決定へ」でも同様に、学級での話合いは5～6割の子どもたちはとてもよくやっている、できていると思っておりますけれども、「ふつう」と感じている子たちの実態を今年度さらに明確にしていければと思っております。

「非認知能力の再認識へ」ということでも、同じようなパーセンテージなので、やはりアンケートのとり方を改善して明確に子どもたちの実態を踏まえて、令和7年度に向けて今年度の活動が生かせるようにしていければと思っております。

グランドデザインに示されている主な手立てとしましては、表現力の強化となっております。リーディングスキルを意識した授業づくり、対話の質を重視した取組み、この2点を主な手立てとして立てて、昨年度から取り組んでおります。以上でございます。

沼崎小学校（井上校長）：沼崎小学校グランドデザインの説明

沼崎小のグランドデザインについて御説明いたします。

本年度は、「夢と志をもち未来を創る児童の育成～すべての児童にとってWell-Beingな沼崎小～」という教育目標を掲げました。

自分の夢を叶えるために努力を続けること、そして、周りの人のためになるような行動をする志をもつことは、多くの人たちとともに生きる未来社会を作っていく上で大変重要です。そのような子どもたちの育成を目指し、社会とのつながりを意識した教育活動を、重点1～3を中心に推進してまいります。

1つ目の「キャリア教育の視点を取り入れた学びの充実」では、探究的な学びやルールメイキングなどを通して、将来にわたって必要となる「伝え合う力」「認め合う力」「挑戦し続ける力」の育成を図ります。特に、探究的な学びは、今年度より始まった「ラーケーション」でも重視されておりますので、保護者の方々とも連携しながら取り組んでまいります。

2つ目の「家庭・地域との連携、協働体制づくり」では、ゲストティーチャーによる体験活動や豊里学園コミュニティ・スクール協議会など、地域の教育力を学校運営の活性化につなげていきたいと思っております。

3つ目の「切磋琢磨し協働する教職員集団づくり」では、教科担任制を一部取り入れたり、学年・学級経営に複数の教員が関わったりするなど、教員一人一人の力が十分生かされるチームでの対応を重視しながら、子どもたちの支援に当たってまいります。

以上です。どうぞよろしく願いいたします。

今鹿島小学校（大竹校長）：今鹿島小学校グランドデザインの説明

今鹿島小学校です。市の目標、そして学園の目標から、今年度の学校教育目標を設定させていただきました。昨年度までいらっしゃいました小山校長先生



が、感謝の気持ちをもって子どもたちを、そういった気持ちを大事にして接していくという方針の下、少し具体化させていただきまして、「互いのよさを認め合い、自らの力で未来を拓く児童の育成」をしていこうということで、学校教育目標とさせていただきます。

組織目標としましては、それを達成するために、「社会の変化にしなやかに対応できる力を養う教育活動の推進」ということで設定しております。大きく目指す児童の姿、そして、「地域とともに」「高め合う教職員」ということで挙げさせていただいたのですが、市の方からも先ほど岡野学園長からもありましたが、「教えから学びへ」「管理から自己決定へ」「非認知能力の再認識へ」ということで、市にも学園にもありますので、こちらの方から本校として具体的に3つ挙げさせていただきました。

特に、表現力の育成ということで、今年度は研究発表会も控えております。そこに向けて、多面的に考え表現できる力の育成に力を入れていきたいと思っております。その中で、課題解決学習や、体験型・発信型学習を主に取り入れていければと考えております。

「管理から自己決定へ」の中では、よさを語り、認め合える人間関係づくり、ルールメイキング、自治的な集団づくりを目標に進めていきたいと思っております。

「非認知能力の再認識へ」につきましては、資料をお読みください。

「地域とともに」ですが、コミュニティ・スクール協議会の皆さんとの連携をしっかりと強化していきたいと考えております。学園内の連携の充実と活性化はもとより、地域の皆様、ゲストティーチャーとして豊富な人材を活用させていただきまして学校教育の中に取り組みでまいりたいと思っております。地域教育力を活用した体験活動の充実として示させていただきます。

「高め合う教職員」という部分はその3つを掲げております。資料をお読みいただければと思っております。

簡単ですが、以上です。どうぞよろしく願いいたします。

#### 上郷小学校（松房校長）：上郷小学校グランドデザインの説明

上郷小学校のグランドデザインについて説明させていただきます。学園目標の実現に向け検討した結果、昨年度より「よりよい未来を拓ける人 コミュニティを育てる」という目標を設定しています。

一人ひとりが幸せな状況をイメージした時に、それは他力本願ではなく、自ら考え行動できる人材の育成が必要であり、そういった人材が集い協働するコミュニティを理想としております。幸い地域に関しましては、様々な人材、団体が長年、創立150周年ですので、150年間にわたって学校をサポートし、積極的に活動されている実績があります。十分に下地がある状態ですので学校としては子どもたちの健やかな成長のために積極的に協働する形で進めさせていただきます。

学校がやるべき行動目標、組織目標としましては、1つ目を「探究的な学びを推進する教育活動の展開」としました。学習はもちろん、特別活動や学校生活の中でも課題をもって主体的に行動して学びを深める教育活動を展開し、先ほど述べました「自ら考え行動できる人材の育成」に努めていきます。

また、児童に寄り添い育む時間を確保するための改革の推進としました。子どもたちに寄り添い、共に考え、学んでいく教師としての本分を大切にしたい働

き方改革、学校改革を進めていきたいと考えています。  
以上となります。よろしく申し上げます。

豊里中学校（岡野校長）：豊里中学校グランドデザインの説明

豊里中学校では、前年度の玉田校長先生の学校経営方針を引き継ぎまして、今年度のグランドデザインを、学園のグランドデザイン等を加味しまして、このように立てさせていただきました。

学校教育目標は、「自己を磨き、夢の実現を目指す生徒の育成」ということで、組織目標としましては3点、「つながりを意識した教育活動の推進」、「教育大綱に基づいた授業改善」、「ワークライフバランスを重視した働き方改革の推進」とさせていただいております。

まず、大きく3つ目標を立てまして、1つ目の柱「表現力」としましては、まず子どもたち、目指す生徒像として「考える生徒」、「認め合う生徒」、「挑戦する生徒」と設定させていただきまして、授業、学校行事、学校生活の中で子どもたちが考え、認め合いながら自分の可能性に向けて挑戦する生徒を育成していきたいと考えて取り組んでおります。自ら学び表現できる意識を醸成するために、ふつうの授業の中でも友達同士のグループ活動を通して子どもたちの考えを深め合ったり練り上げたりという場面を多めに設定する、または学校行事等でも、子どもたちの実行委員を中心とした、子どもたちのアイディア、考えを生かした、挑戦して実現できる場を設定するというのを意識して行っております。

生徒の生活の拠点は学級、学年ですので、生徒の視点や発想を生かし、向上を目指す学年学級づくりとして、自治を重視した生徒改革を推進して展開しております。また、「豊里に生きる自分を見つめるキャリア教育の充実」としまして、つくばスタイル科を軸としまして、キャリア教育の視点をもって授業改善の方も進めております。

2つ目の柱、「連携」では、このコミュニティ・スクールとの連携を強化していきながら、保護者の皆様や地域の皆様の声を反映した学校教育を展開していければと考えております。

3つ目の柱としましては、「教師力」研鑽・信頼とさせていただきましたが、旧態依然の指示説明が多くなる授業よりも、子どもたちに「問いかけ」、子どもたちが「考え」、子どもたちが「実行していく」という授業づくり、「ティーチング」より「コーチング」を合い言葉に、ワークライフバランスを意識した勤務を心がけながら、進めさせていただきます。

簡単ですが、以上です。

(2) 令和5年度の取組について

岡野校長：昨年度からのメンバーと今年度新しいメンバーの方もいらっしゃるのので、昨年度のコミュニティ・スクール推進会議での様子等を一通り御説明した方がよいかと思つて資料を用意しました。簡単に説明してよろしいでしょうか。

昨年度、コミュニティ・スクール推進会議として3回行われておりまして、第1回の推進会議は5月29日に行われていまして、熟議テーマは「どんな人になってほしいか」ということで話し合いがなされております。この中で、「豊かな

人間性が育つ里・豊里」が示すように、「素直」「明るい」「元気」な子どもたちが、「思いやりのある人」「誰とでも仲良くできる人」「地域や人や物を大切に作る人」「感謝の気持ちを大切のできる人」になってほしいという願いを共有することができました。

第2回の推進会議では、「学校の教育活動において、子どもたちのために学校と地域が行えることは何か」ということで、地域の資源・人材・活動等をいろいろ協議していただきまして、「学校として、保護者として、地域としてできることは何か」を話し合った結果、数多くの建設的な意見が出されて、その中で、「学校と地域が連携するのは特別なことではなく普通のこと」という意識を地域の方々に広めることが重要だということ、ハードルを下げて、塀を下げていつでも学校へというコミュニティ・スクールの委員、学校であることを確認することができました。

第3回目は熟議のテーマとして「学校評価結果を踏まえ、コミュニティ・スクールとしてできる手立て」学校評価の意見交換や学校評価を踏まえ、コミュニティ・スクールとしてできる手立てについて話し合われました。アンケート結果等につきましては、先程お示しした結果内容でございます。

最後に、振り返って、学校と地域が連携するのは特別なことではなく、普通のことという意識を地域の方々に広げることが必要であるということと、コミュニティ・スクールの委員や学校が積極的に情報を発信していくことで、保護者や地域の方々が気軽に来校し、子どもたちの教育をそれぞれの立場から支援していけるようにしたいと考えているというまとめが、市のHPにも載せられている内容になっています。後ほど御確認いただければと思います。以上です。

### (3) 学校の教育活動の紹介

古澤会長：続きまして、学校や児童生徒の様子、特色ある教育活動や地域と協働連携した教育活動について、各学校から説明していただければと思います。なお、昨年の推進会議を受けての変化や課題があれば付け加えていただければと思います。

#### 沼崎小学校（兒玉教務主任）：沼崎小学校の説明

沼崎小学校です。昨年度も、地域や保護者の方々にたくさんのサポートをいただきながら、様々な教育活動を行うことができました。ありがとうございます。ここでは、昨年度のCS推進会議で話し合ったことから本年度すでに実現していることを紹介させていただきます。まず、委員の金川さんの御協力のもと、職員室前の学校花壇に水田、校庭の一角に「みんなの菜園」ができました。早速、5年生が先日、田植えの体験を行い、みんなの菜園ではトマト、キュウリ、ナス、ピーマン、ししとうなど、様々な野菜を育て始めています。また、本日、3年生がさつまいもを植える予定をしていますが、あいにくの雨のため、近日中に植える予定です。校内の水田や菜園の手入れを通して、地域の方が集まる場になればと考えています。さらに、今年度新たな取組として、学校支援ボランティアを様々な分野で広く募りまして、交通安全の立哨だけでなく、授業でのサポートやロング昼休みの見守り等も行っています。

今後の取組としましては、今後も学校支援ボランティアを随時募集していき

ます。学習活動支援では各教科の専門的な部分での助言指導や授業の補助をしていただき、クラブ活動支援では主に生け花クラブの指導・補助、環境整備支援では、花壇の植栽や除草・灌水作業、窓や高所の清掃などの校内美化活動、安全確保では、通学路の立哨や休み時間の安全見守り、その他では賞状の筆耕や読み聞かせの他、ボランティアの方のさまざまなアイデアで様々な教育活動を展開していければと思っています。また、環境整備として、花壇の自動灌水装置の設置や校庭の山に芝の植栽などもお願いしたいと考えています。どうぞよろしくお願いいたします。沼崎小学校の説明は以上です。

今鹿島小学校（滝口教務主任）：今鹿島小学校の説明

今鹿島小学校です。昨年度、地域の方々にサポートしていただいた取組のうち、主な4つについて御紹介させていただきます。

まず、読み聞かせである「いまリーナ」です。毎月、1回、火曜日の朝自習の時間に実施しています。保護者ボランティアの方が各学年に分かれて、読み聞かせを行ってくださっています。次に2年生の生活科における町探検についてです。子どもたちが学区内のそれぞれの方面に分かれて安全に探検ができるよう、同行して見守ってくださっています。次に、5年生のミシンボランティアです。初めての家庭科のミシン学習の際に、きめ細やかな指導ができるよう、複数回にわたってサポートしていただきました。最後に地域の「NPO法人むぎわらぼうし」さんによるサツマイモの苗植えと収穫体験です。学校の近くにある畑に行き、丁寧に教えていただきました。収穫したサツマイモは持ち帰ることができ、子どもたちにとって非常に楽しい体験活動となりました。

今後の取組としましては、今後も継続してボランティアを募集していきます。学習支援に関しましては、学習活動支援、教職員同士が互いの授業を参観して研修できるようにするための自習時間の見守り、放課後の時間を活用した家庭学習支援や児童預かり支援、などをお願いしたいと考えています。

また、環境整備に関しましては、長期休業中の草花の灌水や見回り、校舎外の安全点検、登下校の見守り、などをお願いしたいと考えています。以上です。

上郷小学校（佐藤教頭）：上郷小学校の説明

上郷小学校です。地域の方々にもともと支えられることの多い上郷小ですが、その中でも特にというものをピックアップいたしました。

校庭の整備では、つい先日、高所作業車を持っている方に出していただき、枝を切りました。校庭の枝が折れて落ちてくることがあるので、折れそうな枝を事前に切っておき、児童の上に落ちてこないように、安全管理のためにやっただいております。

廃品回収は年間3回行ってございまして、例年行事として地域に根付いていまして、ゴミとして出さずにこちらの方で出していただくということで、ご協力いただいております。

読み聞かせは、月1回、ボランティアの方に来ていただいて朝の時間に読み聞かせの方を行っています。

田植えは、5年生が活動していますが、子どもの手でできないもの、代掻きや水の量の調整など、専門的な部分で御協力いただいているところです。

栽培活動については、パパイアの栽培です。先日、風と寒さでパパイアが葉っぱを落としてしまって、アスパラのような状態になってしまい、枯れてしまったと思ったのですが、ジミーファームの柳下さんにすぐ連絡をして来ていただいたら、「これは自分が生き残るために葉を落としているから心配ないよ」と教えていただき、6年生の担任も、このように植物は生きている、子どもたちにも是非見せてあげたいということで、理科の学習にも生かしていこうと考えているところです。

学区探険の方は、地域に2か所お世話になっています。

学習の方で、これから是非、地域の方々に力を貸していただきたいというところでは、家庭科の裁縫の支援、音楽の楽器の演奏・鑑賞の指導、図工では絵の指導、生活科や理科では虫や植物の専門的な知識をもっている方に御指導いただき、つくスタではキャリアの視点も含めまして、仕事についてのことを、地域の人材の方にお聞きしたいと考えています。また、図工と関係していますが、生活科で工作の指導もお願いできればと思います。

学習以外では、安全の見守りということで、登下校の見守り、見学場所の協力ということで、今確保されているところではない、新たな見学場所について御協力いただければと思っております。それから学習で作ったポスター等を掲示する場所を提供していただけると助かるなどと考えています。以上です。

豊里中学校（久保教務主任）：豊里中学校の説明

最後に、豊里中学校です。他の学校と少し重なるところもありますので、簡単に御紹介をさせていただければと思います。

昨年度地域の方と連携をしてできたところで、職場体験学習、奉仕作業、あいさつ運動があります。

職場体験学習ですけども、こちらにあるワークフォーラムということで、ロータリークラブの皆葉さんに御協力いただいて、たくさんの方に働くこと、職業についてお話していただいています。関連して、ワークフォーラムでお話していただいた事業所の方に、職場体験学習で子どもたちを受け入れていただいています。

9年生を送る会では、「青少年を育てる市民の会」の金川顧問、中山会長のバックアップもあって、9年生は最後に楽しい時間を過ごせ、文化的・芸術的なところを子どもたちに見せることができたと思います。

また、昨年度、地域の方、卒業生の大学生がNPO法人を立ち上げておられて、ソフトテニスの組織を立ち上げています。スポーツマンシップの教育ということで、他の企業とタイアップの授業をしています。

地域の方に御協力していただきたいことは、今までどおり職業体験学習等を地域で受け入れていただく体制を整えていただきたいというのが1つです。それから、他の小学校もそうですが、学校環境の整備については、引き続きお願いしたいところです。それから中学校では、自転車での登下校になりますので、

小学校とは違った見守りになりますが、安全に登校できるように、あいさつだけでも良いので声をかけていただけると、中学生の意識が変化しますので、お声かけいただければと思います。それから、先ほど、最後にお話しさせていただいた文化的・芸術的活動はとても有意義な活動ですので、引き続きお願いしたいところです。今後ともよろしく願いいたします。

古澤会長：ありがとうございました。これまでの学園・学校の教育活動等の説明をいただきましたが、何か御質問・御意見ありましたらお願いします。いかがでしょうか。

金川委員：国の方針、県の方針、市の方針があると思いますが、子どもを自立させたい、という思いと子どもたちが高校に入って大学に行くとずっと努力している中で、子どもたちにお金持ちになりなさいと言っています。

私は、自由な立場だから言えることですが、国の方針、県の方針、市の方針があつて、うまくまとめてやってくれています、やはり経済的に自立するため、幸せになるにはお金が大事、そういうお金の教育が大切だと感じている。

子どもは校庭に入ったら学校に任せ、校庭を出たら地域の責任、学校に自転車の乗り方が悪い、道路で遊んでいる等と学校に電話するのではなくて、地域で注意していくのが基本と感じている。

今回、子どもたちのために、畑を作り、田んぼを作り、焼き芋とか、災害にあったら集合場所にこういうふうにと指導はできるけれど、退避した後どのように行動したらよいかということや、火を起こすにはこういう方法があるのだよということなどを教えてあげたいと思っている。もっと子どもの自立のためにできることをやってあげたい。お金持ちになりなさいという教育をしていただいても良いのではないかと思います。

古澤会長：子どもの自立とか金融教育等も学校の教育活動の中に入れていただけたらというお話だったかと思います。

それでは、先程までに説明していただいた学園のグランドデザイン、各学校のグランドデザインについて、皆様から承認をいただけるかどうかお聞きしたいと思います。御承認いただける方は拍手をお願いいたします。

参加委員：（拍手）

古澤会長：ありがとうございます。それでは豊里学園、それぞれの小学校、中学校は、グランドデザインに則って今年度の教育活動の方を進めていただければと思います。なお、教頭先生や教務主任の先生方の説明で、昨年度の推進会議を受けて、さらに教育活動がパワーアップしてきた様子を知ることができてよかったですと思います。ぜひ、今年度の協議会の方も、子どもたちのプラスになる協議会、熟議になると良いなと思います。

#### (4) 熟議

古澤会長：続いて、熟議に移りたいと思います。ファシリテーターを各校の教頭先生にお願いして、よろしいでしょうか。

各校教頭：（承認）

古澤会長：お引き受けくださりありがとうございます。今回の熟議のテーマ「子どもの良さを伸ばし、課題を解決するには」ということになります。では、神林先生から説明がありますので、お聞きください。よろしくお願ひいたします。

神林教頭：皆様のテーブルの上に、このようなシートがあります。「子どもの良さを伸ばし、課題を解決するためには」ということで、先程、各校から取り組んでいることの説明がありました。取り組みながら各校でこんなことが課題だなということがあるかと思ひます。まず学校側から、それから学校の外から見てこういうことも課題かなということをおあげいただき、その後、それらの課題の解決のためにどんなことができたらいいか、解決策をみんなで協議できたかなと思ひます。よろしくお願ひします。最後に各グループでどんなことがあがったかを発表していただきますので、ファシリテーターの教頭先生方、よろしくお願ひします。

古澤会長：ありがとうございます。

各学校のグループで熟議（30分）

古澤会長：熱心なご協議ありがとうございました。それでは、各グループの熟議で話し合われたことを発表していただきたいと思ひます。お願ひいたします。

沼崎小学校グループ（沼崎小学校：神林教頭）

- ・課題：どんなふうにお広報したら良いか、案内の方法について  
地域の中に不審な方がいたら、広く周知してしまうのは心配である。
- ・解決策：団体（老人会など）に案内を出す。ゆかりの森の老人福祉センターにチラシを置く。PTA 広報誌を活用する。防犯を考え、ボランティアの協力者を募った後、地域の方にチェックをしていただく。また、校内にボランティアルームを作って、どんな活動をしているか分かる掲示をする。そこは人が集まって休んだり、話したり、集える場にし、それぞれの力を発揮できるようにすると良いと話し合いました。さらに、特設講座、生涯学習の場につなげ、大人も子どもも遊べる場づくりを進められたらという意見もありました。子どもたちが教わるだけでなく、逆に、子どもたちが地域の方へデジタル講座を開くなど、地域とつながる場づくりをしていきたい。

今鹿島小学校グループ（今鹿島小学校：中井教頭）

- ・課題：人材バンクを保護者・地域の方をどう募集するか。  
昨年度スクリレ・文書で配信したが、2件のみだった。

- ・解決策：地域の力がたくさんあるが、子どもたちは自分から進んで手を挙げるタイプではないので、年度始めに年間学習計画を見直し、どこの単元でこういう人材が必要であるということを、保護者や地域の方にお知らせをする。2名配置できるコーディネーターを配置、PTA 会長の力を借りたり、市のホームページで検索したりする。アプリ「ハーイ」や回覧板の活用、PTA や保護者の方のネットワークから人材を確保するなど、学校と地域の方が力を合わせて育てていく。

#### 上郷小学校グループ（上郷小学校：佐藤教頭）

- ・課題：かわいらしい子どもたちである。学習意欲を向上させたい。地域のかかわりはたくさんあるが、人との付き合い方がうまくできず、トラブルの際に自己解決できない傾向がある。
- ・解決策：学習ボランティアを活用。今年度から毎週木曜に3年生で「はやぶさ」を実施したり、異学年交流学習を実施したりして学力向上につなげる。また、学習ボランティアとして保護者の力を貸していただく。人との関係づくりについては言葉遣いがキーワードで、子どもたちの話から家で乱暴な言葉を使っている保護者の方がいる様子も見られるので、保護者の教育も必要。コミュニティ・スクールを通して、地域の文化として、こんなふう子どもたちを育てていきたいねという、共通理解を豊里地区で図っていくことができたなら学校教育も進めやすくなるのではないかと考えました。また、子どもを育てるには時間が必要。「教えから学びへ」の視点では時間が必要。ゆっくりじっくり子どもたちを育てる意識を保護者にも理解していただく。

#### 豊里中学校グループ（渡辺教頭）

- ・校舎敷地内の整備について  
夏場は草が生い茂るので、協力いただきたい。
- ・交通安全について  
特に7年生の自転車事故が多い（車と接触、飛び出し、自分の操作ミスによる転倒でケガが4月からで10件に近い）ので、6年生の段階で中学校まで行ってみようを企画してほしい。荷ひもが結わけない、前かごにものを積んで低速になると操作できない、スキルの問題もある。地域の方と協力しながら指導していきたい。
- ・小学校時代から地域の方に協力いただいて、十分な教育活動を受けてきている。今度は、中学生になって地域にどう返していくか、社会力をつけていく必要がある。子どもたちが自分達で自主的に考え、地域に貢献できることは何かと考えて行動するというようにしていきたい。例えば、小学校に行って何かをすとか、小学校で何かやっていくから手伝い行くとか、地域でこんなお祭りがあるから行く等、ある程度計画を立てて連携しながら進めていきたい。

(5) その他



古澤会長：発表者の皆さん、ファシリテーターの各校教頭先生ありがとうございました。最後に委員のみなさんから何かありますでしょうか。

参加委員：（なし）

古澤会長：では、次回の開催予定について、神林教頭先生お願いします。

神林教頭：年3回実施しますので、次回第2回目は9月6日（金）14時から豊里中学校で、第3回は1月20日（月）10時から今鹿島小学校で行います。よろしくをお願いします。

古澤会長：それでは、進行を事務局へお返しいたします。皆様、スムーズな運営に御協力いただきありがとうございました。

参加委員：（拍手）

## 7 閉会

事務局：古澤会長、協議進行、ありがとうございました。本日の会議の内容は以上となります。

なお、本日の会議の様子を、つくば市教育委員会ホームページにて写真を掲載させていただきたいと思えます。委員の皆様、よろしいでしょうか。

また、お手元に「つくば市コミュニティ・スクール評価ガイドライン」を配布させていただいております。こちらは、市教育委員よりコミュニティ・スクールの運営にあたり念頭においていただきたいと示されたものです。提出を求めるものではございません。折々において御活用いただければと思えます。

以上をもちまして、令和6年度 第1回 豊里学園コミュニティ・スクール協議会を閉会いたします。本日はお忙しい中お集まりいただきありがとうございました。今後とも、どうぞよろしくをお願いいたします。

# 令和6年度 第 1 回豊里学園コミュニティ・スクール 協議会

日時：令和6年5月28日（火）

10:00～12:00

場所：沼崎小学校 CAI室（1階）

## 次 第

- 1 開 会
- 2 任命書交付
- 3 教育長挨拶
- 4 説明事項

つくば市コミュニティ・スクールについて

- 5 会長・副会長の選出

- 6 協 議

- (1) 学校運営の基本方針について
- (2) 学校の教育活動事例の紹介
- (3) 熟議 テーマ「子どもの良さを伸ばし、課題を解決するためには」
- (4) その他

○ コミュニティ・スクール協議会の今後の予定について

- 7 閉 会

令和6年度 豊里学園コミュニティ・スクール協議会  
名簿一覧

番号	委嘱の区分	氏名	よみがな	所属・役職
1	(1) 地域住民	金川 清治	かねかわ せいじ	元青少年を育てる市民の会豊里支部長
2	(1) 地域住民	大西 重信	おおにし しげのぶ	各種団体役員
3	(1) 地域住民	伊藤 祐二	いとう ゆうじ	元上郷小PTA会長
4	(1) 地域住民	中山 健二	なかやま けんじ	青少年を育てる市民の会豊里支部長
5	(1) 地域住民	柳下 浩一朗	やぎした こういちろう	ジミーFarm
6	(2) 児童・生徒の保護者	正根寺 公平	しょうこんじ こうへい	沼崎小PTA
7	(2) 児童・生徒の保護者	内田 康隆	うちだ やすたか	沼崎小PTA副会長
8	(2) 児童・生徒の保護者	坂本 健太郎	さかもと けんたろう	今鹿島小PTA会長
9	(2) 児童・生徒の保護者	市村 美和	いちむら みわ	今鹿島小PTA
10	(2) 児童・生徒の保護者	岡田 健一	おかだ けんいち	上郷小PTA副会長
11	(2) 児童・生徒の保護者	岡田 真樹	おかだ まさき	上郷小PTA会長
12	(3) 地域学校協働活動推進員	古澤 武司	ふるさわ たけし	元豊里中校長
13	(3) 地域学校協働活動推進員	皆葉 真治	みなば まさはる	元豊里中PTA会長
14	(4) 学識経験者	長橋 進也	ながはし しんや	元今鹿島小PTA会長
15	(4) 学識経験者	池田 克美	いけだ かつみ	元上郷小教頭
16	(4) 学識経験者	野堀 憲	のぼり あきら	民生委員 豊里地区会長
17	(4) 学識経験者	稲田 優子	いなだ ゆうこ	元学校評議員
18	(5) 学校長	岡野 浩則	おかの ひろのり	豊里中校長
19	(5) 学校長	井上 秀次	いのうえ ひでつぐ	沼崎小校長
20	(5) 学校長	大竹 伸一	おおたけ しんいち	今鹿島小校長
21	(5) 学校長	松房 道之	まつふさ みちゆき	上郷小校長
22	(6) 教職員	渡辺 邦広	わたなべ くにひろ	豊里中教頭
23	(6) 教職員	神林 ふじ子	かんばやし ふじこ	沼崎小教頭
24	(6) 教職員	中井 玲子	なかい れいこ	今鹿島小教頭
25	(6) 教職員	佐藤 貴之	さとう たかゆき	上郷小教頭
26	(6) 教職員	久保 誠	くぼ まこと	豊里中教務主任
27	(6) 教職員	兒玉 真樹	こだま まき	沼崎小教務主任
28	(6) 教職員	猪狩 幸子	いがり さちこ	上郷小教務主任
29	(6) 教職員	滝口 桐子	たきぐち ひさこ	今鹿島小教務主任

## 学園 Purpose (コミュニティとしての役割)

- ・ Well-Being (一人ひとりが幸せな) 豊里を目指して

コミュニティ・スクールとの連携

### 【教えから学びへ】

「受け身の学び」から「自ら学び表現できる」意識の醸成

KPI: 小5中1, 2年生のときに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめている児童生徒の割合

R4: 70% → R7: 80%

### 【管理から自己決定へ】

ルールメイキングで向上を目指す学級づくり

KPI: 学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいる児童生徒の割合

R4: 66% → R7: 75%

### 【非認知能力の再認識へ】

自分の得意や好きなことを見つけられるチャンスづくり

KPI: 難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦しようとする児童生徒の割合

R4: 67% → R7: 75%

### 表現力の強化

- ・リーディングスキルを意識した授業づくり
- ・対話の質を重視した取り組み

やりがいと働き方のコラボ

KPI (重要業績評価指標):

重点目標を達成するために行う日々の活動の具体的な行動指標のこと

令和6年度 つくば市立沼崎小学校グランドデザイン

校訓 至誠



勤労  
協和

学校教育目標 夢と志をもち未来を創る児童の育成

～すべての児童にとってWell-Beingな沼崎小～

組織目標 社会とのつながりを意識した教育活動の推進

重点1: キャリア教育の視点を取り入れた学びの充実

目指す児童像

【教えから学びへ】

考えをもち分かりやすく伝え合う児童

パフォーマンス課題等を取り入れた探究的な学びの推進  
リーディングスキル等を活用し対話の質的向上を図る手立ての工夫

【管理から自己決定へ】

互いの良さを認め合う児童

自己選択・自己決定の場の設定  
(ルールメイキング)  
多面的・多角的思考を育む話し合い活動の工夫

【非認知能力の再認識へ】

あきらめず挑戦し続ける児童

挑戦したくなる課題設定の工夫  
失敗が許される環境作り  
キャリア教育における基礎的・汎用的能力の育成を重視した取組

重点2: 家庭・地域との連携、協働体制づくり

- 学校だより、学校HP等による情報発信の充実
- ゲストティーチャー等の地域の教育力の活用
- 豊里学園コミュニティ・スクール協議会との連携

重点3: 切磋琢磨し協働する教職員集団づくり

- パフォーマンス向上につながる同僚性の構築
- コンパクトでタイムリーなPDCAサイクルの活用
- ワークエンゲージメントを重視した働き方改革

# 令和6年度 つくば市立豊里中学校 グラントデザイン

校 訓 『自主 勤労 協和』

学校教育目標

自己を磨き、夢の実現を目指す生徒の育成

組織目標

○「繋がりが」を意識した教育活動の推進 ○教育大綱に基づいた授業改善  
○ワークライフバランスを重視した働き方改革の推進

ビジョン2024

## 表現力

## 目指す生徒像

考える生徒

考えをもつ 多面的に考える 考えを表現する

認め合う生徒

よさを認め協力し合う 他人の痛みが分かる

挑戦する生徒

目標をもつ 粘り強く取り組む

●自ら学び、表現できる意識の醸成

●生徒の視点や発想を生かし向上を目指す学級・学年づくり 自治を重視した生徒会活動

●「豊里に生きる自分」を見つめるキャリア教育の充実 ～つくばスタイル科を軸として～

ビジョン2024

## 連携

安全・安心

●保護者、地域の声を反映した教育

～コミュニケーション・スクールとの連携～

ビジョン2024

## 教師力

研鑽・信頼

●指示説明より『問いかけ』

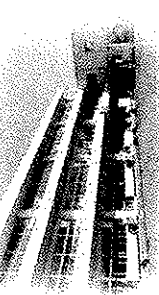
●ティーチングより『コーチング』

●ワークライフバランスを意識した勤務



# 令和6年度 つくば市立上郷小学校ブランドデザイン

目指す頂： よりよい未来をひらける人・コミュニティを育てる  
～ Well-Being (一人ひとりが幸せな) 豊里 ～



## 【組織目標】

- ◎ 探究的な学びを推進する教育活動の展開
- ◎ 児童に寄り添い育む時間を確保するための改革の推進

## 教育大綱に基づいた教育活動

- ◎ 教えから学びへ  
～「受け身の学び」から「自ら学び表現する」学習活動の展開
  - ◎ 管理から自己決定へ  
～ルールメイキングで向上を目指す学級づくり
  - ◎ 認知能力偏重から非認知能力の再確認へ  
～体験、協働、試行錯誤、アウトプット、振り返り活動の重視
- ## コミュニティスクールの推進
- ◎ 外部人材の積極的活用、地域との協働の促進  
やりがいと働き方のコラボ
  - ◎ 協働により、補完し合い、高め合う教職員集団へ





# 令和6年度 つくば市立今鹿島小学校グランドデザイン

## 【学校教育目標】

互いのよさを認め合い、自らの力で未来を拓く児童の育成

## 【組織目標】

社会の変化に、しなやかに対応できる力を養う教育活動の推進

### 目指す児童の姿

『教えから学びへ』

- 多面的に考え表現できる
  - ・ 課題解決型学習
  - ・ 体験型、発信型学習

『管理から自己決定へ』

- よさを語り認め合える
  - ・ ルールメイキング
  - ・ 自治的な集団づくり

『非認知能力の再認識へ』

- 経験値をより高めていく
  - ・ 安心、信頼の生活環境
  - ・ 試行錯誤が保証される環境

### 地域とともに

- コミュニティスクール協議会との連携強化  
(学園内連携の充実と活性化)
- 地域人材(ゲストティーチャー)の積極的な活用
- 地域教育力を活用した体験活動の充実

### 高め合う教職員

- 「働きがい」を充実させるユニット体制の構築  
(3つのユニットグループによる協働体制の充実)
- ニーズに合わせた校内研修
- 互いのよさを認め合い、支え合う風土の醸成